さぬき・東かがわ市　研究のあゆみ

１　研究主題

児童が成長を実感する国語科学習の在り方
―児童の主体性を育む単元づくりと振り返りを生かす支援の工夫―

２　研究活動の概要

・　５月　２日（金）　　研究組織，年間計画，研究主題について
・　６月 27 日（金）　　書写の作品作りについて
　　　　　　　　　　　今年度の研究主題について
　　　　　　　　　　　教材研究「単元づくり」
・　11 月 20 日（木）　　さぬき・東かがわ教育文化祭（書写部門）作品評価研修会
　　作品の評価研修
　　　作品搬入
　　　県出品作品，巡回作品の選出と搬入準備
　　　県出品作品，巡回作品を含む全作品の展示
　　社会を明るくする作文集「ともしび」作文評価研修会

３　研究内容

（１）　６月２７日（木）

○　研究主題について

「国語っておもしろい」「国語を学びたい」という意識が継続しにくく，国語科での授業で学ぶことの意味や良さが感じられていないということや, 付けたい力が身についたことを児童が実感していないという課題から，研究主題の目的を以下の通り設定した。

・　言語による見方，考え方を働かせ，言語活動を通して，国語で正確に理解し，適切に表現する資質・能力を身に付けた児童を育成する。
・　国語を学ぶ大切さを感じながら，課題を解決する中で国語の力を伸ばし，他教科や日常の様々な場面で国語の力を生かそうとする児童を育成する。

また，今年度の研究の重点として

①　児童の主体性を発揮させるための単元構成と導入の工夫
②　児童が自己の成長を実感するために「いつ」「何を」「どのように」振り返るのか

の２点をあげ，取り組むことにした。

○　書写の作品作りについて

令和７年度さぬき・東かがわ教育文化祭（書写部門）に向けて，どのように作品作りを進めたらよいかについて担当から説明があった。評価のポイントを共有することで，よりよい作品ができるようにした。また，留意事項を確認することで，規定から外れることで審査から除外されてしまう作品が出ないよう共通理解した。

○　教材研究「単元づくり」

各学年に分かれ，２学期の教材について単元構成をどうすれば研究主題に迫れるかを考えた。

≪２年生「紙コップ花火の作り方≫

ゴールを示し，児童の興味を高める手立てを考え，持続させる方法について話し合った。伝えるための方法や練習計画もきちんと立てることで，児童意欲を継続させようと考えた。また，伝わりやすい説明になっているかどうかをタブレット等を利用して，客観的に見直すことや，１年生だけでなく，上級生にも広げることで，より「できるようになった」「説明するための力が付いた」と実感させる場の設定についても考えられた。

≪６年生「筆者の工夫をとらえて読み，それをいかして書こう」

「『鳥獣戯画』を読む」を学習した後，日本文化のよさを伝える文章を書くという単元だが，目的をもって教材文を読めるように，言語活動を先に提示し，よさを伝えるための文章構成や資料の提示の仕方，よさを伝える文章表現等を見つけながら読むことを導入の段階で押さえておくようにした。文章を読む視点を明確にしておくことで，自分の作文にも生かしたり，友達の作文のよさを見つけたりすることもできると考えた。

（２）さぬき・東かがわ教育文化祭（書写部門）作品評価研修会

○　作品の評価研修（講話）

昨年度と同様，作品としての白黒のバランスや，文字の中心の取り方，名前も作品の一部であることや字形をきちんと整えて書くことなど，評価のポイントについて学んだ。

○　作品審査

講話で聞いた評価のポイントをもとに，部員で話し合いながら審査した。作品を見る視点をもとに，今後の書写学習の指導に生かしていきたい。

（３）　社会を明るくする作文集「ともしび」作文評価研修会

今年度は，いろいろな先生に作文を読んでもらうことで作文指導に役立ててもらおうと，「ともしび」作文評価研修会をさ・東小学校教育研修会の中に設定した。審査に合う作文の選定の仕方や書きぶり，作文用紙の使い方や既習漢字の確認などを通して，今後の作文指導に生かせるようにした。

４　県の研究との関連

【今年度の研究での成果】

・　今年度は，単元づくりのワークショップを行うことで，普段の授業を見直し，どのように単元計画を立てればよいのかを考えることができた。実際に考えられた計画をもとに各校で研究テーマに沿った授業を行うことができた。どこでどのような振り返りをすればよいのかも，意識できるようになったのではないか。

【今年度の研究での課題】

・　実際に各校で行われた授業について，どのような成果があったのかをまとめる機会がなかったので，事例を報告しあうなどの場があれば，より研究が深まったのではないか。また，児童の振り返りを次の場面や日常の言語生活においてどのように生かしていくのかを考えていく必要がある。

小豆郡　研究のあゆみ

【研究主題】　子供の「やりたい」と「分かった」が高まる国語科単元の工夫

１　研究主題について

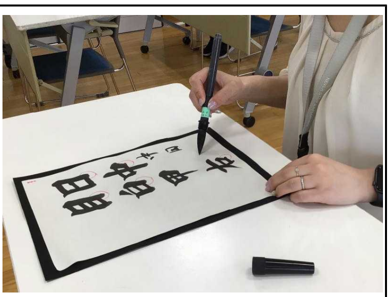
子供が国語のおもしろさや楽しさ，大切さを感じながら国語科の学習に主体的に取り組み，自分の成長を実感できる授業を目指す上で大切にしたいのが，子供の「やりたい」「分かった」という思いである。子供がその時間の学ぶ意味を感じ，主体性を発揮しながら，言葉による見方・考え方を働かせ，課題解決に取り組んでいる教室では，子供の「やりたい」という思いと「分かった」という実感が溢れているだろう。そこで，学ぶ意味を子供が実感する国語科授業の実現に向け，主題を「子供の『やりたい』と『分かった』が高まる国語科単元の工夫」と設定した。

２　研究の実践

(1) 第１回研修内容

①書写指導についての研修　　解説等：豊島小学校　教諭　藤田剛志

「子どもにとって魅力いっぱいの書写学習を目指して」と題して，部員からの書写指導についての質問事項を解説しながら教えてくださった。



・学年最初の書写開きは，書写の新たな魅力への導入であり，毛筆の必要性を確認することが大切である。「まず書いてみよう」ではなく，「書きたい」という思いをもった上で書くことを大切にしたい。運筆指導や筆順，接筆指導で，なぜ書き分けるのか協働的に学ばせたい。
・予算が必要であるが，３年生以上でも，水書用筆や書写筆，筆ペンの活用等，道具を工夫することで，片付け作業も簡単にできる。
・毛筆作品の名前を（漢字か仮名か）書く際には，児童本人の意思と小筆をコントロールする技能に応じた個別対応を行う。
・低学年の硬筆の筆圧については，読み手にとっての見え方や分かりやすさを意識させ，疲れない範囲で紙面を押す感覚の確認を行う。
・書写の授業では，知識に関するめあて（ひみつを見つける）と技能（整えて書こう）に関わるめあてを区別し，児童が能動的に設定できるような学習過程を工夫する。また，振り返りについても，知識，技能，学習過程，観点別評価項目を区別し焦点化する。
・書写学習に苦手意識をもつ児童への支援として，１つの部分（はらい等）だけに焦点化した指導や評価のポイントをしぼって取り上げる工夫をする。
・水書用筆を活用し，筆圧と運筆速度，リズムの調整を行う。飛行機が離陸するような感じで書く感覚を大切にし，その方がとめやはらいが書きやすいという実感をもたせたい。また，書き方を理解するための目的で活用したい。
・「清書」は NG ワードであり，「『書写のかぎ』で学んだことを生かして書こう」などの指導が適切である。
・教室の掲示は，作品を並べるのではなく，活用することができる文字例や文字の２択クイズ等，学習内容の深化につながるようなものが望ましい。
・毛筆の指導については，「毛筆を使えば『書写のかぎ』がよく分かる」「普段，硬筆で書くときに役立つ」等，児童自身が筆記具を通して学ぶ意義を実感できるようにする。
・くせがある文字の直し方については，蛍光ペン等による視覚化やポイント制などのゲーム的要素を取り入れ，その文字や部分を常時意識化できるよう工夫することが大切である。
・板書の文字を美しく書くためには，点画の長短を強調して書く等，子どもの文字との差別化を図ることを意識したい。

②９月の研究授業の教材研究

第６学年「表現に着目して読み，考えたことを伝え合おう『模型のまち』」の学習について，教材研究を行った。単元を通して目指すゴールの姿に向かい，必要感をもって学習に取り組めるよう，まずは，グループで「やりたい」と思わせるアイディアづくりについて話し合った。また，色や題名，情景描写等，中心人物との関わりで，表現による効果の解釈についても意見交流を行った。

＜「やりたい」と思わせるアイディアづくり（グループで）＞

・既習の物語を想起させ，「物語に隠されている表現のひみつを探そう」と課題を設定する。仕掛けを見付けながら読むおもしろい読み方を児童に実感させる支援があるとよい。
・字づらからの表現だけでなく，さらに深い読みに気付かせたい。「ワタシゴト」を活用し，色に着目させることも考えられる。
・「ビー玉」「模型のまち」など，「AI の解釈と比較してみよう」と投げかけるのもおもしろい。

＜ご指導＞

・「ヒロシマのうた」→「模型のまち」
悲惨さというイメージだけでなく，戦後80年を意識した教材となっていることも，読みの視点としてもっておきたい。
・優れた叙述を教師自身が知っておかねばならない。

・根拠のある授業をしていくことが大切である。(「色」について読む。)
・比喩や反復など，これまでに触れてきた表現をまとめていく。
・表現の工夫への気付きを積み重ねていくことで，長文でも５時間で読み取れる力が6年生では必要である。
・「分かった」という自分なりの納得解をもてるようにしたい。

(2) 第２回研修内容

第６学年「表現に着目して読み，考えたことを伝え合おう『模型のまち』」の授業実践，授業討議を行った。

国語嫌いで読む力に課題があるという実態から，色彩や繰り返し，平仮名表現等に着目させて読んだり，ダウト読みやヒントカード等を活用したりして，おもしろいと興味をもたせる工夫を取り入れ，実践した。

＜授業討議＞
・叙述や表現の工夫に気付かせるダウト読みは効果的だった。ヒントカードも自分の考えと合っていたり，使いたかった言葉を見付けたりして自信につながっていた。時代背景や教材と自分をつなげる工夫が必要である。
・変容を見つける手立ては教材が変わっても同じである。教師と児童との関係やその実態に応じて，変容の理由を見付けたくなる仕掛けや読みたくなるような手立て等，目的意識をもって読む経験を積み上げていくことが大切である。

＜ご指導＞
・単元導入時の「やりたい」や単元終末の振り返りでの「分かった」の前提には，教師側に付けたい力（指導事項）がある。
・教材分析や教材研究，しかけを行う教師の姿は，児童の興味や理解を支える支援となっている。
・児童の実態に応じて扱う場面を限定することで，自分事として考えることができ，主体的学びへとつながる。
・話型を提示し，思考を整理する時間を十分に確保することで，自分なりに考えを工夫でき，友達との対話の中で思考を吟味，再構築できる機会となる。
・表現の効果を考えるとは，読み手に与える効果や着目する表現を精査することであり，様々な表現に着目することが自分の考えをもつ手がかりとなる。
・表現の効果を考える際には，発問や視点等を投げかけ，必要感のある対話を促したり，自分で表現の工夫を見つけたりする。
・叙述に着目して読むと，表現への気付き，平和への願い，自分の変化等，自分の考えをもっている姿が表れてくる。
・学習の系統性を重視し，第５学年での表現の工夫を見つける学習と，第６学年での取捨選択して自分の考えをまとめる学習を実態に合わせて繰り返し指導することが大切である。

3　成果と課題

○書写指導についての研修では，便利で効率的な教具を紹介していただき，実際の教材を使いながらの実技研修で，今後の指導に生かすことができる研修であった。
○学習内容に関する部分を焦点化して指導するという日頃の書写指導のポイントをご指導いただいたことで，今後の書写の指導を見直す機会となった。
○今年度２回の研修では，物語を楽しんで読む力を付けるための支援の在り方について具体的に考えることができた。第２回研修の研究授業に向けた教材研究を第１回目に全員でできたことで，課題意識をもって研修に臨むことができた
○児童の実態に応じて目指す姿も違い，読みの観点も変わってくる。今回の研修で，授業者自身がまず教材解釈・分析を行い，物語を楽しく読むための授業づくりをみんなで協議したことで，単元導入までの手立てや単元計画等，教材文を理解させるための支援について明確になった。
○児童の実態にあった授業づくりのための教材研究の大切さが分かり，学力の問題や学習意欲，学習課題への向き合い方等，参考になった。
○教材提示，視覚支援の在り方等，個別最適な学びの環境づくりの工夫が大切だと感じた。
●単元計画等，課題や疑問のもたせ方を研修する機会をもちたい。
●系統立てて，連続性のある研修が難しくなってきている。部員数も減少し，授業研究が難しくなってきている中，研修の積み重ねが必要である。
●配当時間内で，時代背景や事柄を理解させることや言葉に着目して読むことは，読みが苦手な児童にとって難しく，普段から物語や言葉等に興味をもつ指導を継続していくことが必要である。
●高学年の物語教材では，それまでに身に付けた力を活用して単元を読み進めていけるよう，児童の実態に合わせて，各学年で付けたい力を確実に身に付けていくことが重要である。

（文責：小豆島町立苗羽小学校　武井　律子）

高松市　研究のあゆみ

1　研究主題　　　　　　児童が言葉を通してつながり合う国語授業の創造
～「課題を解決したい」という願いをもち、
『分かった・できた』という自己の伸びを実感する授業づくり～

2　研究活動の概要

（1）4月　研究組織を作り、研究主題の設定、年間計画作成
6月　授業をもとに、研究を深める

北ブロック　　太田南小学校（4年）私のクラスの「生き物図かん」
中央小学校（5年）物語の組み立てについて考えよう
「世界でいちばんやかましい音」

南ブロック　　塩江小学校（1年）「きいてつたえよう」

（2） 7月　夏季研修会
（3）11月　授業をもとに研究を深める

北ブロック　　古高松南小学校（4年）人物の気持ちの変化を伝え合おう
「ごんぎつね」
牟礼北小学校（1年）ふねについて大じなことばを　てがかりに　やく目や
つくりをよもう
「いろいろな　ふね」
浅野小学校（5年）印象に残るような話し方について考えよう
「提案します、一週間チャレンジ」

3　研究内容

（1）自分の学びを認識できる振り返りを生かした、「課題を解決したい」という願いをもちたくなる単元構想や学習問題の工夫

単元の中心となる時間に児童の振り返りを具体的に想定することで、1単位時間の展開やその前後の時間の在り方を考え、単元を構想する。

北ブロック

1年『こえに出してよもう』

・ 走る姿とジャンプする姿を表裏にしたペープサート（チロスティック）を準備し、その動作時における登場人物の表情を描きこませたり、背景の挿絵を貼り付けた「チロボード」を準備したりして、物語の世界に入り込みやすくした。

４年『わたしのクラスの「生き物図かん」』

・　自分の「問い」に対し、いくつかの集めた情報の中から、「答え」を選び、友達に紹介することを通して、情報を整理し、より説得力のあるリーフレットを完成させせることができた。

４年『人物の気持ちの変化を伝え合おう』

・　毎時間の「振り返りクイズ」に取り組ませることで、その時間に学習したことの読み取りがきちんとできているかどうかを確認することができた。

５年『物語の組み立てについて考えよう』

・　毎時間、①自分の学び②友達との違い③自分の変化の３観点から振り返ることで、友達と学んだ意味を感じることができた。

南ブロック

１年『ふねについて大じなことばを手がかりに　やく目やつくりをよもう』

・　単元のゴールがイメージしやすくなるように単元計画を視覚化した「ラーニング・マウンテン」を活用し、説明文を読む意欲を高め、学習の見通しがもてるようにした。

（２）「分かった・できた」という実感をもたせるための指導過程の工夫

教材教具を繰り返し使用したり、同難易度の課題に複数回取り組む時間を設定し、スモールステップや ICT を活用して学習の工夫を図ったり、協同的に何かを作り上げる活動や意図的な人数構成をすることで、学び合いを工夫したりする。

北ブロック

１年『こえに出してよもう』

・　ペープサートを上手に動かすために、ペアでお話を読んで登場人物の様子や気持ちを考え、台本や付箋に音読の工夫や気持ちを書き込むことで、「話せた」という実感をたせることができた。

４年『人物の気持ちの変化を伝え合おう』

・　場面ごとのキーセンテンスを取り出し、掲示することで、前の場面とつないで考えることができた。

５年『物語の組み立てについて考えよう』

・　「始まりの場面」と「終わりの場面」の違いを視覚的に捉え、対比的に読むことで、山場の大きな変化について考えることができた。

南ブロック

１年『きいてつたえよう』

・　「あ」の付く言葉を３つ→先生の好きなものを２つ」→「先生の好きなものを３つ」というように伝える内容をレベルアップすることで、児童が「できた」と思えるような学習活動を取り入れた。

１年『ふねについて大じなことばを手がかりにやく目やつくりをよもう』

・　繰り返し出てくる文型や言葉を読み取りのヒントとなるよう掲示して、今まで読み取った船の説明について力が付いているかどうかを、振り返りに生かすことができた。

５年『印象に残るような話し方について考えよう』

・　タブレット端末を活用し、自分の発表を見返すことで、客観的に振り返り、何ができていて、足りない部分はどこなのかを適切に把握できた。また共同編集が可能となり、班活動での効率化を図れた。

４　県の研究との関連

【今年度の研究での成果】

〇児童の振り返りを基にした単元構成

どの授業においても、振り返りから考え、付けたい力を明確にもって単元が構成されていた。目的をもった学習が、毎時間積み重ねられていた。また振り返りに必要な「キーワード」「キーセンテンス」等を掲示し、それらが児童の思考の助けになっている授業が多かった。単元のゴールをイメージできるように、それぞれの教室において写真や実物の展示、また教科書や教師の模範例などを視覚的に捉えられるような手立てがあり、児童にとっても学習意欲の向上につながった。

〇付けたい力を付ける手助けとなる教具・教材を繰り返し使用する

タブレット端末を活用する授業が多くなり、自分自身の学習活動を振り返る手立てとしてはかなり有効である。また YouTube の視聴を学習活動の一部に取り入れた授業では、児童の興味を引き付けることができた。そこから自分たちの動画と比較したり、コメントを加えたりすることで改善につなげていくような指導が重要となってくる。話し合いを豊かにするための「ツール」として、ICT を活用することは有効である。

また場面ごとのワークシートや焦点化しやすいワークシートを作成することによって、児童の意識が途切れることなく学習に集中できた。「目印になる言葉」や「大事な言葉」など、教師側が着目してほしい部分に目を向けることができた。

【今年度の研究での課題】

単元や学習活動の内容によっては、スモールステップでの達成目標を明らかにすることも必要となる。どこをゴールにするか明確にし、振り返りがしやすくなるような問いかけも大切となってくる。そのためには、どのような視点で振り返れば良いのかについて、今後も話し合っていくことが必要である。

坂出市・綾歌郡　研究のあゆみ

１　研究主題

学ぶ意味を子供が実感する国語科の授業づくり
―子供の「やりたい」と「分かった」が高まる国語科単元の工夫―

２　研究活動の概要

研究主題である「学ぶ意味を子供が実感する」姿とは、子供がその単元で身に付けたい力を意識しながら、話す・聞く・書く・読むなどの学習活動に主体的に取り組み、協働的に課題解決に向かう中で、自分の伸びを感じたり、身に付けた力を新たな問題解決に生かしたりする姿のことである。そのような姿で学びに向かう子供たちは、国語を学ぶおもしろさ、楽しさ、大切さを実感し、必然性をもって学習解決の道筋を見出していく。「もっと読みたい。」「もっと考えたい。」との思いをもち、純粋に国語科を楽しむことのできる子供たちを育成するために、授業においてどのような工夫ができるかに焦点を置き、昨年度に引き続き今年度も研究を進めてきた。

その具体としては、自己を見つめ学びを振り返る３つの場面（課題設定前・課題解決中・課題解決後）における目的を達成するための方策を具体的に考え、授業を構成したことである。まず、課題設定前は、学習意欲を高めるために、これまでの学びの軌跡を確認できるようにするとともに、解決の必然のある課題を全体で共有した。次に、課題解決中は、各々がより納得する考えをもつために、自他の考えの共通点や相違点を捉えやすくしたり、活動や教具を工夫したりするなどの手立てを充実させた。そして、課題解決後においては、自身の学習への取り組み方や学びの成果を捉えるために、「何を」「いつ」「どのように」振り返るのか、単元や本時の学習の特徴に合わせて、効果的な振り返りの方法を工夫した。
５月と１０月の公開授業にて行った研究実践について、以下に述べる。

３　研究内容

（１）５月２８日　授業実践

第１学年「さとうとしお」

授業者　坂出市立金山小学校　　教諭　　錦織　萌

本単元は、「C 読むこと（１）ア時間や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えること」を受けて設定した。本教材では、砂糖と塩の共通点と相違点を簡単な文章で説明している。本時は教材で学んだことを活用し、いちごとレモンの相違点を見付けて、主述を捉えた説明の文章で表現する活動を行った。「さとうとしお」と同じように、見た目や味等の観点で共通点や相違点を考えることで、説明文の形式を定着させ、「自分にも説明文を考えることができた」という達成感が、

工夫点として、味や形、手触りなど、比較する観点を児童が選択して文章にする際は、実際に実物を触って確かめる活動を入れた。そうすることで、友だちと活発に交流しながら自分の感覚に合う様々な言葉を見つけていくことができた。しかし、問いに合う答えをどのように文章に表すとよいのかが難しい児童も数名いた。そのような児童には、言葉を集めたヒントカードを学習支援アプリで提示したことで、そこから言葉を選び、自分の選んだ観点に合うよう自己調整しながら文章を書くことができた。

（２）１０月２２日　授業実践

第３学年「せっちゃくざいの今と昔」

授業者　綾川町立陶小学校　　教諭　　中川　望

本単元は、「C 読むこと（ウ）目的を意識して中心となる語や文を見付けて要約すること」を受けて設定した。単元のゴールを、学校図書館の本を全校生が手に取ってくれるように「本の内容を短くしよう」と設定し、並行読書を通して、自分の選んだ本の内容の一部を要約して紹介することを目的とした。

本時では「おどろいた事柄の内容を要約しよう。」という課題を設定した。文章の要約は、児童にとって大変難解な課題であるが、「自分の驚いた内容」といったように、要約する箇所を選ぶ条件を絞ると、内容の大体が見えやすくなり、どの児童も進んで要約に挑戦することができた。また、自分の驚きを伝えるという明確な目標をもたせたことも、意欲を高める上で非常に効果的であった。

課題を確認した後、児童がよく知っている人気キャラクターの意見として、要約する際のバッドモデルを提示した。すると児童は、その文章の改善点について活発に話し合い、常体文で書く、大事な言葉を入れる、短くまとめるなど、要約のポイントを全体で押さえることができた。さらに、ワークシート上に要約に必要な言葉を抜き出すのに、付箋を用いたことが有効な支援であった。要約する際には、その言葉を書いた付箋を移動させたり組み合わせたりしながら、要約文をつくっていく様子が見られた。要約文を書く際に適切な言葉を取捨選択する作業は、言葉の感覚を磨くのに有効な活動であった。

４　県の研究との関連

【成果】

児童が国語科を意欲的に楽しく学ぶ工夫として、児童が内容を理解し、考えをもつ手立てを具体的に講じたことで、児童は高い意欲を保ち、思考し続けることができた。

（１）の授業では、自作教材を活用する単元構成を組んだことで、児童にもっとやってみたいという意欲を喚起させることにつながった。そして、まだ語彙が少ない児童にとって、実際の感覚を確かめながら言葉にしていくプロセスは、言葉を紡ぐ作業を楽しみつつ、新たな語彙を学び、説明文の形式を正しく理解する機会となった。

（２）の授業では、自分が驚いたところを要約するという具体的な課題設定をしたことで、児童にとっては本時の活動目標が明確となり、学習意欲を高めることができた。また、児童全員が文章の要約に取り組めるよう、ワークシートの形式や付箋を活用するといった教具の工夫や、十分な交流時間の確保も、児童にとって、国語科学習の楽しさを感じられる有効な手立てであった。

【課題】

昨年度に引き続き、効果的な交流の方法については課題として挙がった。自分の考えを捉え直し、再考していくためには、自分と友達との考えの異同に目が向くような交流の視点が必要である。交流が単なる考えの紹介に終わらないように、教師がどう仕掛けるか、具体を考えたい。また、振り返りにおいて、毎時間の積み重ねによって伸びを実感することはできているが、次の課題を児童が自ら見出していくような振り返りには至っていない。何を、どのように、どのタイミングで振り返るとよいか、その方法について具体的に研究を進めたい。

丸亀市　研究のあゆみ

１　研究主題

学ぶ意味を子どもが実感する国語科の授業づくり
―付けたい力を身に付けさせるために、自己を見つめることを促す―

２　研究活動の概要

（１）　４月１６日　　研究組織作り、研究主題の設定、年間計画作成
（２）　５月２８日　　垂水小学校　研究授業・討議
　　　　　　　　　　３年　「自然のかくし絵」
（３）１１月２６日　　岡田小学校　研究授業・討議
　　　　　　　　　　１年　「おとうとねずみチロ」

３　研究内容

（１）５月２８日　　垂水小学校にて　研究授業・討議
　　　　　　　　　３年　「自然のかくし絵」　授業者　白井　典子　教諭

目標　・　答えが書かれている段落を読み、保護色が役に立つ場合と役立たない場合に分けて、要点をまとめることができる。

【成果と課題】

<u>自力読みの力をつけるための手立てと支援の工夫（発問・ワークシート・交流活動）</u>

○　ワークシートで、本文と記入欄が上下に対応していて、流れが分かりやすい。
○　繰り返し出てくるキーワードに着目させることで、要約がしやすくなっていた。
○　接続詞に着目することで、文の構成がどうなっているか理解しやすかった。
●　ワークシートが色分けされていることで、着目すべき段落は見つけやすかったが、自力読みとは結び付いていなかったのではないか。
●　教科書に載っていない言葉に言い換えるときは教員の説明が必要。
●　要約をするときに、使うことを指定されていた言葉があったが、児童によってはまとめるのが難しかった。教員が要約の型を教えるのではなく、児童と協働で要約の型を作ってみてもよかった。

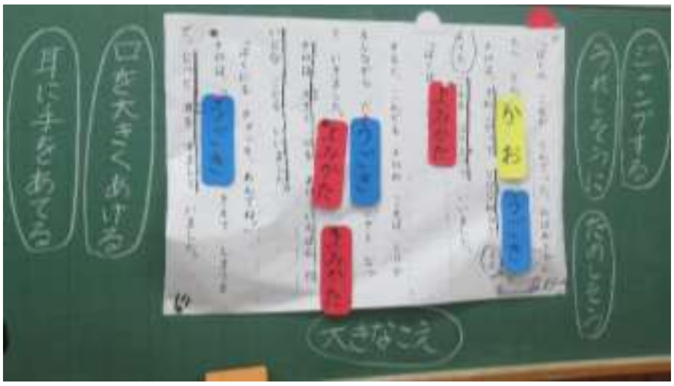
【ご指導】

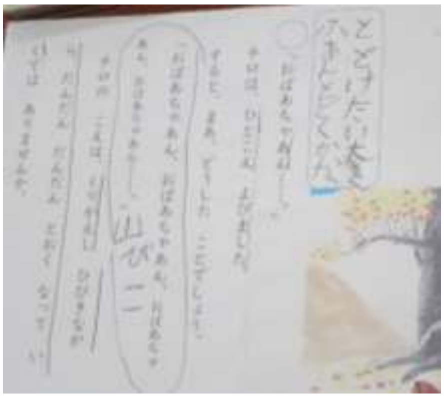
・　大事な言葉（繰り返し出てくる言葉・問いに関係する言葉）を見つけることが課題解決の手がかりになる。
・　問いの段落の答えがどこか問いかけることで、段落相互の関係も分かってくる。

（２）１１月２６日　岡田小学校　研究授業

１年　「おとうとねずみチロ」　授業者　松田　智恵　教諭

目標　・　「かお」「よみかた」「うごき」の３つの視点で読み取ったことを音読で表現することで、登場人物の行動を具体的に想像することができる。





【成果と課題】

<u>自力読みの力をつけるための手立てと支援の工夫（発問・ワークシート・交流活動）</u>

○　チロになりきるためのセットを用意していたことで､児童の意欲付けになっていた。また、チロと同じ行動をしてみることで様子がイメージしやすかった。

○　本文をもとにして音読の工夫を考え、根拠を本文の言葉で説明できる児童が多かった。

●　読み方の工夫を考える活動はやることが多いため、１ 年生にとっては難しかった。視点を絞って工夫点を考えた方がよかった。

●　会話文ごとに「かお」「うごき」「よみかた」の視点を意識して考えた方がよい。

【ご指導】

・　読みたいという意欲、読む方法が分かるスキルが大切。

・　３つの視点を意識しやすいため、しっかり考えられる。具体的に想像することにもつながる。

・　書いてある内容を読み取るために、着目する文を狭めていたが、その分考えるのが難しくなってしまった。

・　同じ想像でも根拠が違うものなどで交流するなどの工夫もできる。

４　県の研究との関連

【今年度の研究の成果】

子どもたちの「分かった」という思いを高めるために、授業の流れが分かるワークシートを用意したり、体験的な活動を取り入れたりすることで、課題解決に向けた自身の考えをもつことができた。

【今年度の研究の課題】

子どもが学習に向かう価値を感じられるように、なぜこの学習をする必要があるのか、つけたい力との出合わせ方について工夫を考えていく。

仲多度郡･善通寺市　研究のあゆみ

1　研究主題

学ぶ意味を子どもが実感する国語科の授業づくり

―子どもの「やりたい」と「分かった」が高まる国語科単元の工夫―

2　研究活動の概要

（１）　４月 16 日（水）　年間計画、研究主題決定について

（２）　６月 18 日（水）　国語科の授業づくりワークショップ【説明的な文章】

（３）　７月 22 日（火）　国語科の授業づくりワークショップ【文学的な文章】

（４）　11 月 19 日（水）　研究授業（ビデオ視聴）　竜川小学校（４年）

3　研究内容

（１）　６月 18 日（水）　国語科の授業づくりワークショップ【説明的な文章】

講師　附属坂出小学校　教諭　岡根　平氏

県研究副主題「子どもの『やりたい』と『分かった』が高まる国語科単元の工夫」を受け、　説明的な文章の授業づくりについて、演習を交えた講話をいただいた。①つけたい力の明確化、②言語活動の設定、③単元計画、④本時と、ステップを踏みながら実際に２学期単元の授業づくりを行った。また、１単位時間では、課題設定前・課題解決中・課題解決後の３つの場面における教師の支援の在り方について学んだ。

（２）　７月 22 日（火）　国語科の授業づくりワークショップ【文学的な文章】

講師　附属坂出小学校　教諭　岡根　平氏

附属坂出小学校　教諭　小出　早織氏

附属坂出小学校　教諭　　東　泰右氏

文学的な文章の授業づくりについて、演習を交えた講話をいただいた。単元を通して子どもに身につけさせたい汎用的な国語の力の向上を目指した、魅力的な言語活動や有効な単元構成や手立てについて学んだ。また、学年別に分かれて２学期の教材研究も行った。

（３）　11 月 19 日（水）　研究授業（ビデオ視聴）討議

＜単元名＞　４年　聞いてほしいな　こんな出来事

講話　「話す・聞く」領域の授業づくりについて

講師　附属坂出小学校　教諭　　東　泰右氏

本時の目標

話す力・聞く力を高めるための計画を友達と話し合って立てることにより、学習の見通しをもつことができる。

授業の流れ

３年生までの学習内容や自分の経験を振り返った後、話し方名人になるために、話し方で大切なことやできるようになりたいことを話し合った。その際、６年生のスピーチ動画や教科書のスピーチ動画を視聴し、自分の目標設定のヒントにした。その後、学習計画を立てていった。それぞれの時間で練習する内容（声の大きさ・間の取り方など）や順番は、各自が選択できるようにした。

魅力的な学び合いを行うためのしかけ

① 導入で、「話すこと」についての経験を十分に振り返り、課題を出させることで、自分の高めたい力について具体的に考えられるようにする。
② 友達と意見を出し合うことで、自分だけでは気付かなかったことにも視点を向けられるようにする。

研究討議

1 学ぶ意味を子どもが実感できているか。
- 児童が失敗談を語り合うことで、児童が自身のできていること・課題などの把握をできていた。
- 学習する内容・方法・順番・ゴールを示すことで、子どもが納得して進められるようにしていた。
- できるようになりたいことをブレーンストーミングで出していったが、内容が広がりすぎてしまった。

2 子どものやりたいこと・分かったことが高まる工夫ができているか。
- ワークシートでの毎時間の振り返りで、学びの蓄積がよく分かった。また、振り返りのレベルが示されていたので、次時の意欲につながっていた。
- 話すテーマを「好きな○○」と絞ってしまうと、気持ちが広がらないのではないか。

4 県の研究との関連

【今年度研究での成果】

○ 魅力的な言語活動や目標設定について考える授業づくりの研修を重ねることにより、研究授業では、生活経験をもとに、主体的に課題設定を行う児童の姿を見ることができた。

【今年度研究での課題】

○ 児童から出された多様な意見から、焦点化する過程に課題がある。付けたい力を明確にした国語科の授業づくりを目指していきたい。

三豊・観音寺市　研究のあゆみ

１　研究の主題

学ぶ意味を子どもが実感する国語科授業づくり

―子どもの「やりたい」と「分かった」が高まる国語科単元の工夫―

２　研究活動の概要

（1）　４月２３日（水）第１回役員研修会（三豊市立本山小学校）

・年間計画作成・研究内容の検討

（2）　７月２４日（木）第２回役員研修会（三豊市立本山小学校）

・全体研修会に向けての事前研修会

（3）　８月２５日（月）全体研修会（三豊市立本山小学校）

・国語科指導（書写の指導を含む。）の実際

（4）　９月１７日（水）全体研修会（観音寺市立粟井小学校）

・研究授業及び討議

３　研究内容

（1）　国語科指導（書写指導を含む。）についての研修

①　書写の授業の導入について（分科会Ａ）

国語科における書写の学習について、学習指導要領に明記されている指導事項を確認した後、授業の進め方、書写授業の実際の展開例、評価の方法について研修を行った。基本的な授業の進め方として、「導入→課題発見・把握→理解→応用（日常の文字に生かす）」の流れを基本とし、児童自らが課題をもちながら学習し、日常の文字に生かすことに繋げていく。指導のアイディアとして、穂先の通り道、タブレットの活用、試し書き、クイズ、筆ペン・水書筆の使い方を実際に体験し、今後の指導に生かせるようにした。

【筆先に朱墨をつけて書く】

②　教育文化祭について・教材づくり（分科会Ｂ）

香川県小中学校総合文化祭並びに各郡市教育文化祭の出品規定、題材の選択の仕方、留意点の研修を行った。

（2）　第６学年「プラスチックごみの問題について考えよう」の研究授業・研究討議について

①　研究授業

説明文『「永遠のごみ」プラスチック』を読み、教材文と資料を関係付けて、自分の考えを友だちに発表した。単元を通して目標を明確にし、主体的な取組につながるようにするために「ラーニングマウンテン」を作成し、常にめざすゴールと過程、立ち位置を確認しながら学習を進めていった。

本時では、イメージマップを活用し、プラスチックごみ問題を解決するための自分 の考えと、資料の内容を結び付け、同じ解決方法を考えている友だちと交流し、自分の考えを深めていった。

② 授業討議

【授業討議】

- ラーニングマウンテンは、自分の学びの位置を確認したり、学習のゴールやそれまでの過程の見通しをもったりすることができるので有効である。授業の中でいつでも見られるように、クラスのマウンテンと自分のマウンテンがあってもよいのではないか。また、振り返りの視点とどうつなぐのかもあればよいのではないか。
- イメージマップは、子どもたちに見通しをもたせるために有効なものであったが、授業のゴールに到達するために、どのように生かされるのか意識できていない児童もいたので、できている子を取り上げたり、プラッチックごみに対する４つの解決策を選んでから本文につないでいくなど、逆にしたりしてもよかったのではないか。

③ ご指導　　観音寺市立観音寺小学校　教頭　香川やよい先生

- 国語科の授業で大切にしたいことは、教師が子どもたちに育てたい力を身に付けさせるために必要な見方・考え方を明確にし、子どもたち自らが働かせることができるような指導・支援を工夫することである。
- 学びがいのある課題設定のためには、単元を通した付けたい力の可視化、共有化が重要である。本単元では、「ウミガメを何とかしたい」という子どもの意識を大切に、授業を展開するとよい。
- 自己選択・自己決定の場では、イメージマップで、どうしてこの言葉をつなげたのか理由が言えるように学習環境や協働的な学びの場を提供する。
- 子どもと一緒にラーニングマウンテンの完成版を作っていくと効果的である。

４　県の研究との関連

【今年度の研究の成果】

書写の指導の仕方や教具、文化祭の作品作りの留意点に関する研修を通して、児童が主体的に文字の整え方の原理・原則を理解し、それを日常生活で使えるような学習活動を工夫することができた。また、栗井小学校の研究授業から、積極的にICT を活用した授業の実践を学ぶことができた。

【今年度の研究の課題】

さらに主体的な学びにつなげるために、課題設定の工夫、自己決定の場、学びを実感できる振り返りについて、研究を深めたい。